

(別紙 7)

北海道におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る計画/評価報告

1 狩猟者の現状や課題等

エゾシカの推定生息数及び農林業被害額は高水準で推移している中、狩猟による捕獲数は平成 24 年度の 69,271 頭から令和 5 年度の 35,232 頭へと大きく減少している。

ジビエを取り巻く環境については、国がジビエ利用量倍増を目標として掲げるなど今後の消費拡大が見込まれるが、捕獲個体を加工する食肉処理施設では、衛生に係る安全確保のために高い受入基準（着弾部位、搬入までの時間等）を設定しており、狩猟者にとってこの条件を満たして捕獲・運搬を行うことは難易度が高い。

2 1 の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	令和 6 年 9 月
場所	書面による
目的	狩猟免許を有する者のうち、狩猟期間中に道が指定する食肉加工施設に捕獲個体を搬入する者を対象として、知識・技術向上のための講習を実施。
対象者・講師 (人数も記載)	受講者 275 名
内容	衛生管理及び食肉利用を前提とした捕獲技術に関する講習
方法	「エゾシカ利活用のための捕獲・運搬テキスト」を活用
評価方法	受講者 (R6 275 名、R5 310 名)
事業費	通信運搬費 45,220 円
備考	

注 1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には本事業の目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性や事業効果の検証・測定方法等を記入すること。

注 2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2 の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

道が指定した食肉処理施設からは、講習受講者が搬入した捕獲個体に関する特段の指摘（改善要望）を受けなかったことから、講習受講者が食肉利用を前提とした捕獲

技術・知識について理解を深める機会となったものと考えられる。今後、食肉需要が回復した場合、食肉処理施設に対する搬入頭数が増えるものと見込まれることから、受入処理が円滑に進むよう、受入基準に則した捕獲方法の徹底について狩猟者に対して働きかけを行う必要がある。

注：1の課題及び2の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、事業目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組目的・内容の改善点や今後の狩猟者育成の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。